

クリーニング苦情における最近の傾向（続報）

近畿大豊岡短大 ○中島照夫、竹内善和

和歌山信愛女短大 中田尚子、クリーニング総合研 小野雅啓

目的 前報<sup>1)</sup>では、クリーニング事故の未然防止、繊維製品の質向上、消費者啓発の基礎資料を得るため、横浜市のクリーニング総合研究所に持ち込まれた2年間の事故鑑定書を用いたが、今回は、8年間の事故鑑定書を用い、主として質問項目間の関係を調べるために距離づけを行なった。

調査方法 本調査に用いた資料は、横浜市のクリーニング総合研究所の取り扱った事故衣類の鑑定書（昭和54年3月から昭和62年2月まで）合計4460件である。質問項目は前報<sup>1)</sup>と同様に8個の大項目と146個の小項目に分類し、年月別の度数を数え、全ての項目において年月別の合計が100に満たないサンプルは、より精度の高い分析を行なうために削除したので、サンプル数は2764件となり、小項目は69個に整理することができた。その結果、アイテム数が8個（事故名、責任所在、事故原因、洗い方、素材、色柄、製品名、製品の形態）でカテゴリーはそれぞれ、9, 9, 9, 7, 8, 11, 12, 4個に整理され、その中で数量化Ⅱ類を行なった。

結果 過去8年間のクリーニング苦情調査は、質問項目間の距離づけの結果、事故原因の相当な部分が事故名、責任所在で説明できることが前回よりも明らかになった。

文献 中島照夫、竹内善和、中田尚子、三石芳通：日本家政学会第40回大会研究発表要旨集、172、1988。